

2010（平成22）年度事業報告書

2010（平成22）年4月1日から平成23年3月31日まで

特定非営利活動法人 おきなわCAPセンター

1 事業の成果

今年度も学校単独の申し込みは少なかったが、浦添市と豊見城市からの委託事業のおかげで昨年度を上回る172回のワークショップを提供することができた。

今年度はWAMの助成を受けたことで、人材育成のためのさまざまな研修会を行いメンバーのめざましいスキルアップが図れた。また、那覇市地域福祉基金補助を受け市内7公民館と市内10ヶ所で大人ワークショップを、その中の7園で就学前ワークショップを開催することができた。今年度、就学前ワークショップの実施回数が設立以来最高の数となったことは喜ばしいことである。

2 特定非営利活動に係る事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施回数	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
子どもへのCAPワークショップ（暴力防止プログラム）提供事業	CAP小学生ワークショップ	70回	県内各小学校	約20人	2097人	4,034
	CAP就学前ワークショップ	32回	県内各保育所・幼稚園		564人	
	CAP中学生ワークショップ	4回	県内各中学校		125人	
	CAP高校生ワークショップ	1回	県内大学（琉大）		20人	
	その他子ども向けワークショップ	4回	県内特別支援学級・養護施設		50人	
大人へのCAPワークショップ提供事業	CAP大人ワークショップ	32回	県内各学校、保育所、幼稚園	約20人	526人	

	C A P 教職員ワークショップ	6回	上山中、石田中、上田小、沖教組		98人	
	その他 学校・保育園以外 連携機関	9回	連携機関 公民館・ 児童課等		264人	
子どもへの 暴力防止に ついての学 習・啓発事業	公開講座 思春期解決志向	1回	県福祉セン ター	3人	30人	669
	主催ワークショ ップ(連合愛のカ ンパ、他)	6回	県内 NPO 支援 センター他	15人	110人	
	那覇市福祉基金 補助	7回	那覇市立7 公民館	15人	60人	
	ミニ講座	7回	武道館など	8人	124人	
ワークショ ップ提供の ための人材 育成事業	県外研修会	3回	宝塚 東京	4人	4人	2,955
	県内研修会	3回	県社協など	5人	5人	
	定例会	月1回	ているるな ど	3人	100人	
	〈WAMの研修〉 子どもの人権と法律 就学前の児童理解 気持ちのワーク ビジネスマナー 救急救命法 被害児童の心を学ぶ コーディネーター 多様性トレーニング 子育て不安と自尊心 アサーティブネス ワークショップ振返 就学前ワーク実演 子どもの視点境界線	13回		3人	193人	

地域ネットワーク事業	地域ネットワーク会議	6回	児相・児童家庭課・女性センター	5人	約20人	64
会報等の発行事業	会報の発行	年3回	事務所	5人	会員他関係機関750人	158
その他、目的を達成するために必要な事業	「CAP生活」「気持ちの本」「あなたが守る～」販売	適宜	県内	約20人	関心のある大人	410

平成22年度事業について

(1) CAPワークショップ（暴力防止プログラム）提供事業

昨年度に引き続き浦添市（29回）と豊見城市（36回）からの委託があり、那覇市地域福祉基金補助分もあわせて、昨年度を上回る数のワークショップを提供することができた。子どもへのプログラム提供事業においては、111回実施。中学生、高校生対象のワークショップは計画を下回ったが、就学前においては目標を大きく上回って達成し、それによりメンバーがそれぞれの役割をステップアップすることができた。

大人へのプログラム提供事業は、61回実施。沖教組との共催教職員ワークショップに参加した先生から、後日申し込みがあり中学校での教職員ワークショップにつなげることができた。また、沖縄大学、名桜大学、那覇市や豊見城市の就労支援センター、愛隣園、県社協の児童館職員向け、読谷村社協、職業訓練生、NPO団体学習会等地域の連携機関でのワークショップにより、幅広い層に届けることができた。

(2) 子どもへの暴力防止についての学習・啓発事業

今年度は、代表理事長田清を講師に「思春期の子どもと解決志向でうまくいく！」講座（7月17日）を実施。申し込み段階から思春期の子どもへの対応や接し方に戸惑う声が多く聞こえ、参加者の感想からもニーズの高さを感じ、15周年にあたる来年度の思春期に焦点を当てる「15才の君へ」事業の足がかりとなった。

また、那覇市地域福祉基金補助により「幼い子どもが自分自身の身を守る

ための支援事業」を実施して、那覇市立7公民館すべてで大人ワークショップを開催した。そのほか、「連合・愛のカンパ」により、銘苅小学校、鏡原中学校のPTAや、宜野湾市のNPO法人ハッピーハウスに協力してもらい計6回の主催ワークショップを開催することができた。

また、ミニ講座のうち6回はメンバーがそれぞれの得意分野を活かして担当し、心と体の両面から元気を引き出す内容で開催。夏休みの親子参加型は定員を超え、追加開催した。自己尊重講座、体幹トレーニングにおいては、これを機に那覇市、豊見城市、奥武山スポーツ教室から講師依頼もくるなど活動の幅を広げている。

(3) ワorkshop提供のための人材育成事業

WAMの助成を受け、内部研修を充実させ、ビジネスマナーや救急救命法から自己尊重トレーニング研修、アサーティブ研修、境界線研修など13回の研修会と、宝塚でのエンパワメントセンターの「多様性トレーニング3日間研修」や東京のCAPグループへの視察研修など、人材育成に力を入れることができた。また、「ジョイント研修会」に糸数、嵩原、宮国、西が参加して、おきなわCAPセンターの今後の展開や理事会の持ち方について学び、「ボランティア活動とリスクマネジメント」研修に糸数と屋良が参加した。どちらも今後の活動に活かされる有意義な研修会であった。

(4) 地域ネットワーク事業

沖縄県要保護児童対策協議会代表者会議へ中村が出席。那覇市要保護児童対策地域協議会の代表者会議と「すこやか親子おきなわ2010推進協議会」に糸数が、「新しい公共とNPO活動の今後を考える」に上野が参加した。県の広報番組「うまんちゅひろば」(糸数)とラジオ「FMタイフーン」(嵩原)に出演して広く県民に活動をPR。「地域社会の未来を考える円卓会議」に糸数が参加して、関係機関や企業に活動をPRした。

(5) 会報等の発行事業

通信を年3回発行。会員を増やすために、名刺交換した人に活動を紹介しながら通信を送付することを積極的に行った。また、WAMの助成金でワークショップの内容をわかりやすく紹介するパンフレットを作成し、県内の学校、保育所、幼稚園、関係機関1600ヶ所に配布することができた。

(6) その他、目的を達成するために必要な事業

補助金で作成して増刷した「CAP生活」「CAPノート」と「気持ちの本」「あなたが守るあなたの心あなたの体」(ともに森田ゆり作)を、大人ワークショップにて常時販売。好評な売れ行きを保っている。参加した人が、家庭や学校で「人権」についてや、「自分の気持ち」について、子どもと一緒に考える復習用の冊子として活用されている。